

# AI時代の意思決定はどう変わるのか

高橋 利枝, Ph.D.

早稲田大学 文学学術院/AIロボット研究所 教授

ケンブリッジ大学「知の未来」研究所アソシエイト・フェロー

@内閣府消費者委員会 2026.6.25



# 自己紹介：高橋利枝（たかはしとしえ）

## ■ 所属・専門

- 早稲田大学教授（文学学術院；AIロボット研究所）
- ケンブリッジ大学「知の未来」研究所アソシエイト・フェロー
- SNS、スマートフォン、AI、ロボットなど新たなコミュニケーション技術の社会的影響を研究

## ■ 主な関連プロジェクト

- 国連『AIのある未来』共同代表
- YMGプロジェクト／GenZAI：2000年以降、若者とメディアを対象に国際比較調査・インタビュー調査を継続。テレビ・インターネット、SNS・スマートフォンを経て、AI・生成AIへ展開。

## ■ 政策・審議会等

- 総務省情報通信審議会委員
- 総務省「未来社会を見据えた人とデジタルの関係性に関する研究会」座長等



国連『AIのある未来』プロジェクト関連会合にて  
国連本部（ニューヨーク、2025年5月28日）

# プログラム

1. 自律的意思決定をめぐるリスク
2. AI時代の意思決定プロセス
3. 自己創造と適応
4. 生成AI時代の主体性とリテラシー

# 1. 自律的意思決定をめぐるリスク

消費者は、単なる受け手ではない

# AI利用に伴う主なリスク

## 1. 技術的リスク

ハルシネーション、バイアス、セキュリティ

## 2. 悪用・社会的リスク

詐欺、ディープフェイク、ダークパターン

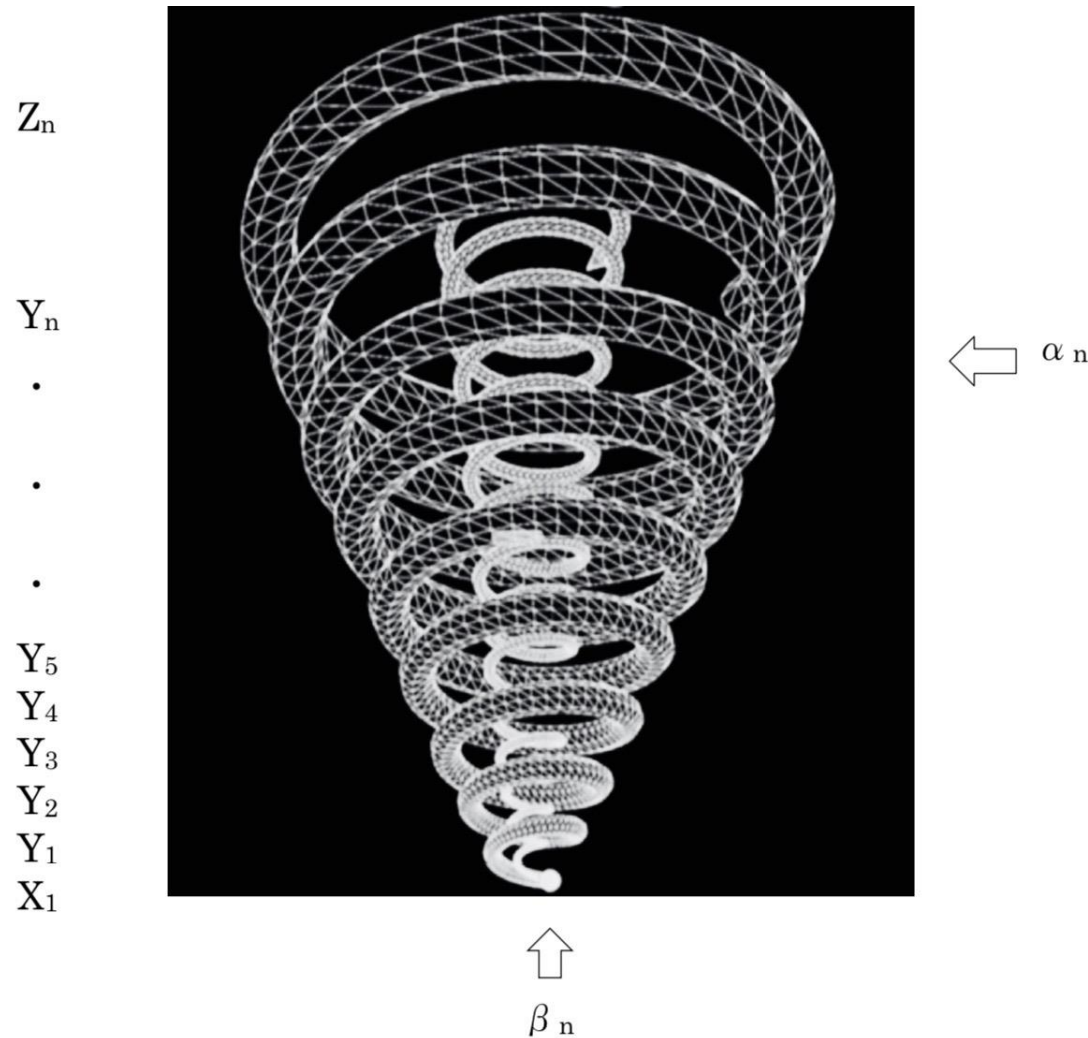
## 3. 意思決定への影響

AIへの依存、判断の委任、情報環境の偏り  
(フィルターバブルなど)

## 2. AI時代の意思決定プロセス

コミュニケーションの複雑性モデルより

# コミュニケーションの複雑性モデル



## マクロレベルの力学

1. グローバル
2. ナショナル
3. 科学技術イノベーション (GAFAM)

←  $\alpha_n$

スマート・シティ、コミュニティ、企業、学校、家庭のスマート化

## ミクロレベルの力学

人々のエンパワーメント、エンジェンシー  
AIとのエンゲージメント

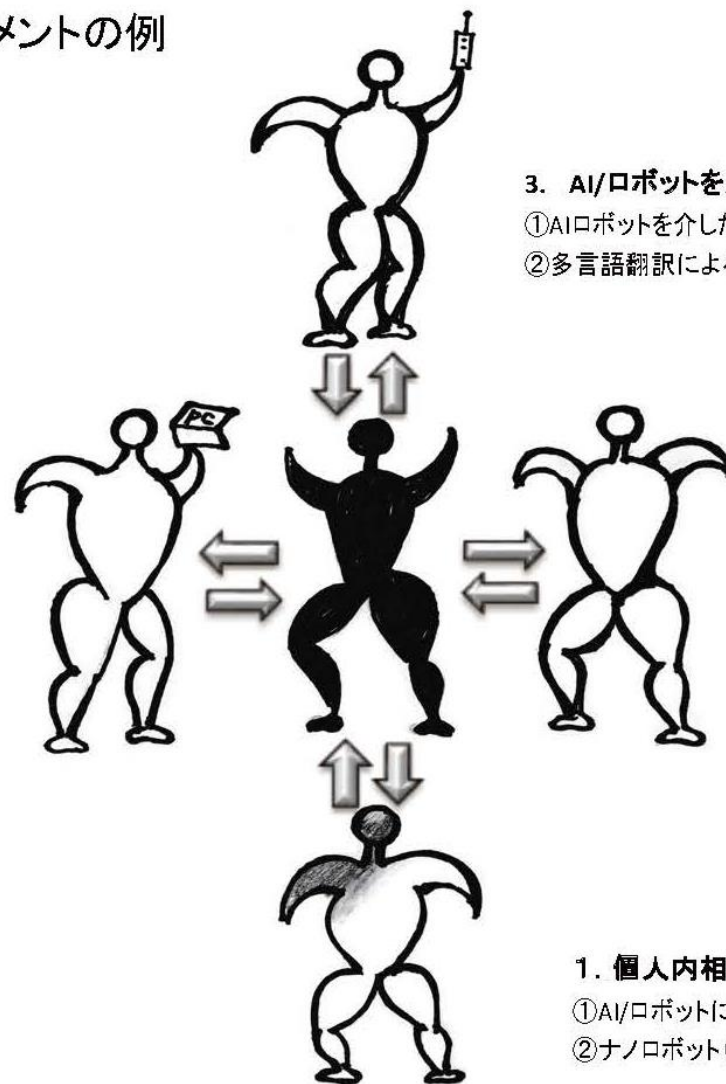
$X_n$ : 個人 (individuals)	$\alpha_n$ : 力 (power)
$Y_n$ : 社会集団 (social groups)	$\beta_n$ : 自己組織化 (self-organisation)
$Z_n$ : 文化 (cultures)	

図1 コミュニケーションの複雑性モデル (The Complexity Model of Communication)

## 個人とAI/ロボットとの多次元のエンゲージメントの例

### 2. AI/ロボットとの擬似的な相互作用(para-social interaction)

- ・AIナラティブ  
(映画やTV, SNS上でのAIやロボットに関するナラティブとの一方向的、擬似的な相互作用)



### 3. AI/ロボットを媒介とした個人間相互作用

- ①AIロボットを介した他者との相互作用(医療、教育、サービスなど )
- ②多言語翻訳による異文化間相互作用

### 4. 個人-高度なAI/スマートロボット間相互作用

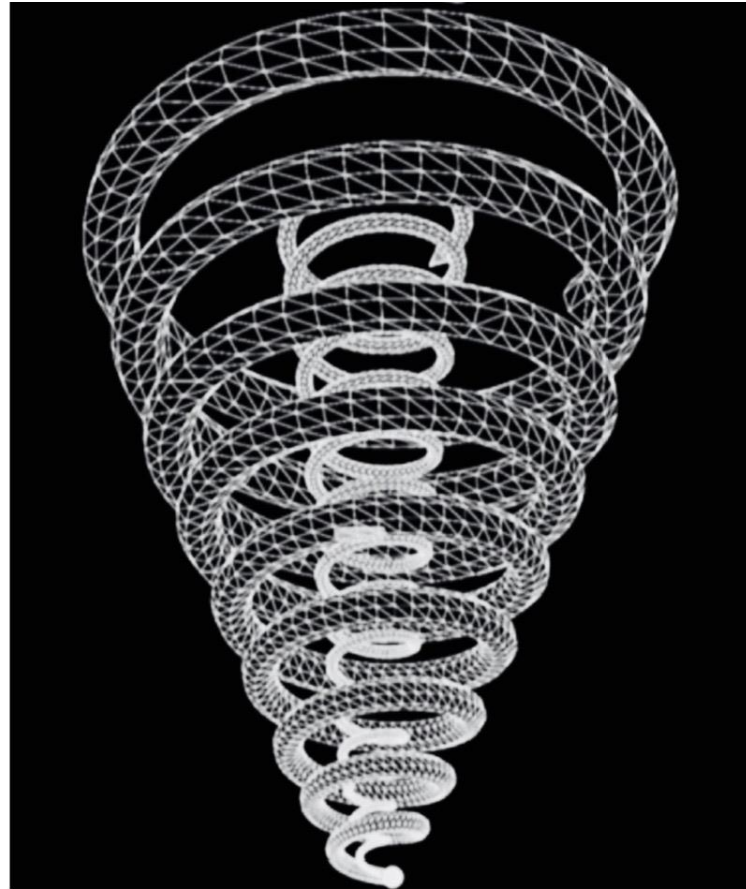
- ・ネットワーク化された高度なAI/スマートロボットとの対面的相互作用  
(子どもの見守り、学習、家事、仕事、健康管理、介護、看護、医療分野など)

### 1. 個人内相互作用 (intra-personal interaction)

- ①AI/ロボットに関する情報行動(情報・知識の収集、発信);認識・感情・欲求;
- ②ナノロボット(健康や拡張知能、エンハンスメントのためにセンサーやチップを体内に埋め込むなど)

# コミュニケーションの複雑性モデル

## －CGイメージ動画－



※掲載用資料では、動画再生はできません。

### 3. 自己創造と適応



### 3. 自己創造

- 自己創造とは

「グローバルなAI環境の中で、直接的経験と媒介された経験（例えば、デジタルメディアや、AI・ロボットなどとの相互作用）を通じて、再帰的に自己を創造、再創造するプロセス」

- 政府・企業・社会は、人々が自己を創造し続けられるよう、支援や機会を整えていく必要がある。

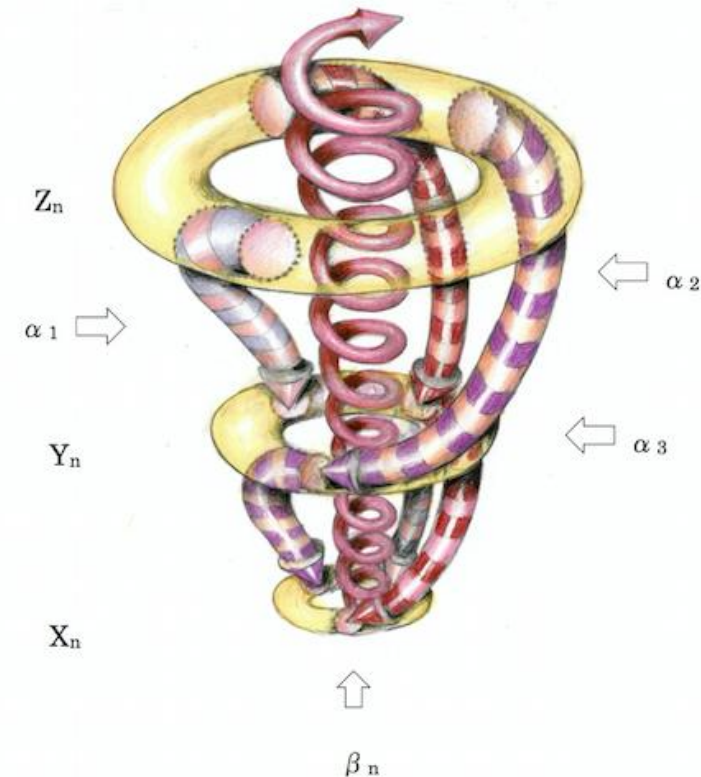
図. 自己創造 (Self-creation)

(高橋利枝 (2016) 「デジタルウィズダム of the 時代へ」 新曜社, p.244)

# AI社会における適応

適応の3つのモード

1. 応化(accommodation)
  2. 抵抗(resistance)
  3. 流用(appropriation)
- AIをただ受け入れるだけでなく（応化）、支配的な意味づけに「抵抗」しつつ、AIを自らの目的に合わせて「流用」しながら、自己実現を図っていく。



マクロレベル：カ学

$\alpha_1$ : ナショナル、 $\alpha_2$ : グローバル化、 $\alpha_3$ : 科学技術イノベーション

図. AI/ロボット時代におけるコミュニケーションの複雑性モデル(高橋利枝 (2016) 「デジタルウィズダム時代へ」新曜社, p.293)

# 生成AIとは何か？

YMGプロジェクト2026より

---

適応の型	「生成AIとは」	説明
応化	大波	AIが社会の前提として組み込まれ、乗りこなす人と取り残される人に分かれるターニングポイント。 (男・21歳・大学4年生)
抵抗	まな板	AIはあくまで叩き台や補助であり、最終的に価値を生み出すのは人間であるべき。 (男・20歳・大学3年生)
流用	都合のいい友達	友達には気を使ってできないことも相談できる存在。AIとの対話を通じて、自分の考えを整理する。 (女・19歳・大学2年生)

---

## 4. 生成AI時代の主体性とリテラシー

# 若者から見た生成AIとリテラシー

## YMGプロジェクト2024より

- 失業よりむしろ新しい仕事の創出に期待
- 技術的なスキルよりも、AIに置き換えられない人間ならではのスキルを身につけることを希望
- サポート的な導入
- 個人情報の収集や情報の信頼性
- 低年齢の子供のChatGPTの利用に関して懸念

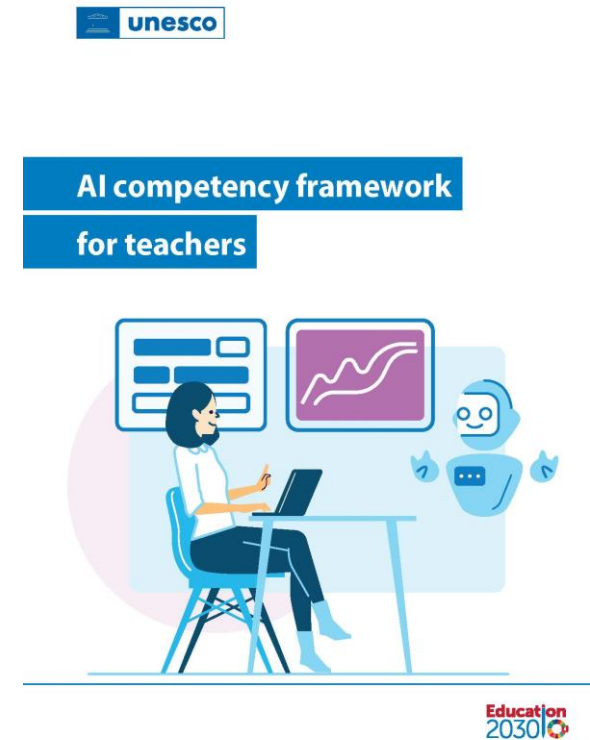
→年齢制限を設けるべき

重要なのは、サービス提供者への**規制だけでなく**、利用者自身がリスクに対処する**リテラシーを身につける**こと。



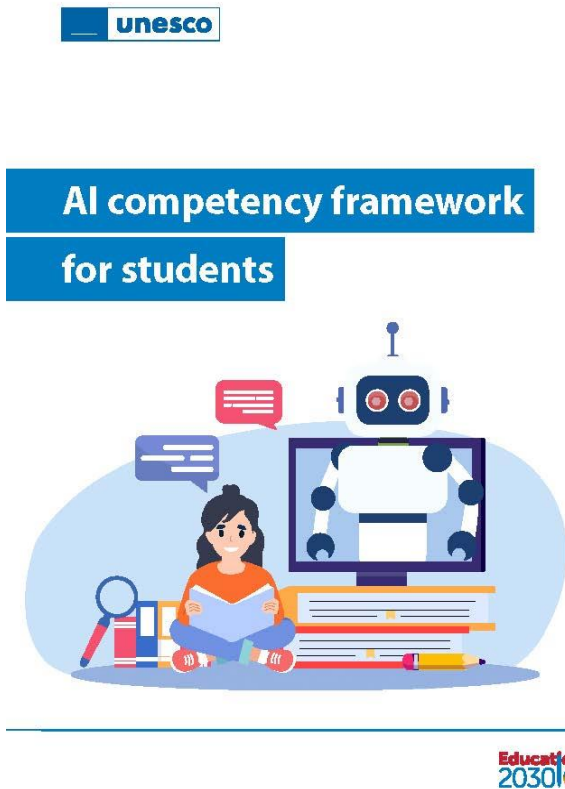
# UNESCO (2024) :教師向けAIコンピテンシー 教育におけるAIの人間中心のアプローチ

1. 人間中心の設計と利用
2. 公平性と包摂性
3. 説明可能性と安全性
4. 人間による制御と責任



# UNESCO (2024) : 学生向けAIコンピテンシー AI時代に必要な3つの力

1. 人間の主体性 (Human agency)
2. 人間の責任 (Human accountability)
3. AI時代におけるシティズンシップ



AI competency framework for students  
<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000391105>

# Enable people to create their own futures

ご清聴ありがとうございました。

高橋 利枝

早稲田大学文学学術院/AIロボット研究所 教授

ケンブリッジ大学「知の未来」研究所  
アソシエイト・フェロー

[toshie.takahashi@waseda.jp](mailto:toshie.takahashi@waseda.jp)

<http://toshietakahashi.com>